

観念的空間と生理的スペースを別棟とし、渡り廊下で結ぶ

樹木の間から遠く蔵王連峰を望む、南蔵王の裾野に切り拓かれた別荘地にしさん宅があります。東南側の清川の流れの音が木立の間を響き渡っていきます。このような自然環境の中で、敷地は境界を意識することなく、

ため、それに対応した庇のないコロニアルスタイルの小屋をイメージさせる外観です。またカラーリングは、四季を通じて周囲と共存共生できる山吹色が採用されました。

ブナなどの雑木林は極力伐採を避けて、建物の配置計画がなされました。つまりは周囲の緑との交歓の場をなるべく多くするために、平家建ての2棟仕立てになっています。棟と棟の間には広いデッキが設けられ、それに面した渡り廊下が即ち玄関といった構成です。

この住宅は、一方が観念的スペースとしてのパブリック棟と、もう一方は生理的スペースである水回りと寝室棟に分けられ、平行でありながらズレて配置され、交錯することなくこの地の中で一対となって建っています。内部の床は、和室のタタミ以外は全体に300角のいぶし瓦が敷込まれ、自然の中での場の持つ意味を再認識させています。



この建物の構造は木軸構造とし、ブナなどの混成する雑木林の木々と、加工された柱とを共存させ、その間を通り抜けていく風があり、屋根をかけることにより発生するであろう場に、一応居間とか食堂といった名称を与えないに過ぎないのです。つまり周囲の環境が居間や食堂などの住空間に入り込み、交歓しあうように

したともいえます。居間・食堂にはコンクリート打ち放しの自立壁を対面するように2枚設け、今日という時代をかかえて生きる個の意志を象徴させ、自己と他者の関係の最少単位である対とすることにより、コミュニケーションへの思いを表現しようと考えました。

家族構成=夫婦
 敷地面積=435.13㎡ (131.62坪)
 床面積=99.78㎡ (30.18坪)
 構造=木造平家建
 竣工=平成3年1月

